

いてふ

ICHO No36 2020 5



Hofu Institute of Gastroenterology

一般財団法人

防府消化器病センター

消化器疾患を中心に  
質の高い, 安全で, 温かみのある医療を提供し  
予防医学, 研究事業を通して  
地域社会に貢献します

消化器・一般外科 うぶかた 生形 ちかい 盟 医師 着任挨拶

どうも、初めまして。生形 盟と申します。防府消化器病センターに配属になり、一か月になろうとしております。山口県での生活にもだいぶ慣れ始め、日々充実した生活を送っております。また「いてふ」での紙面を与えて頂き、ここでは、私の生活、趣味に関して書こうかなと思います。

私の生活ですが、外科医としては珍しいタイプで、朝早く出勤し夜の帰宅も早いタイプです。起きるのは大体 5 時半には目が覚めており、そこから朝食等をゆっくり食べ、またシャワー等を浴びて 7 時少しには、出勤しております。仕事が終わったら（終わらない場合もか?）、さっさと帰宅し、コロナ影響下では、どこも外出できないのですが、家での炊事等を割と凝って行います。コロナが収束したら、中国、九州地方の様々な場所に出かけたいと考えております。

また趣味ですが、当初は、釣りと車だったのですが、釣った魚の処理に困り、自分で捌き始めたのがきっかけで、そこに料理も加わりました。男の独身をいいことに、明らかに不

要料理器具をネット通販や、都内に居た際には、合羽橋まで出かけて、購入しています。ただ道具は立派なのですが、実際の腕前となると?な部分も多く、日々研鑽しております。また包丁を使った一連の動きには、外科医に通ずる部分も多いと考えており、医療職男性陣の方は、ぜひこの機会に自炊を試してみるのも一興かと思えます。

ここまで、医療に関して、全く触れてきませんでしたが、消化器外科として、また防府消化器病センターの一員として、身を粉にして働く所存です。スタッフの方々は、気軽に話しかけて頂けると幸いです。また三浦院長はじめとする、医師の先生方は、一年間指導の程、何卒よろしく願い申し上げます。



Message from our Director

盾と剣

病院長 三浦 修

新型コロナウイルス（COVID-19）の国内外の感染拡大の猛威は、依然として全く方向性がみえない中、各医療機関も感染防止に対してあらゆる努力を傾けている状況です。特に、感染者の治療を実際行っている病院は、精神的にも肉体的にも極限状態での闘いを強いられています。

韓国での感染対策が有効であったとの報道も聞きますが、これは 2015 年の MERS（中東呼吸器症候群）感染時の苦い経験から、感染症に対しての厳しい法的整備を確立し、今回も早い時期から PCR 検査と情報開示を行い、国を挙げてのウイルス封じ込め対策が功を奏したと言えます。これに対して、米国と並んで、イタリア、スペイン、フランス、イギリスなどでは死亡者数が急速に増加して、医療従事者あるいは救急隊員などの感染率も驚くほど高い状況です。ウイルス感染を防ぐべき防護服すらも足りずに、ほぼ無防備に近い状態で業務に従事せざる得ない局面も目に入ってきます。

現在、各国が協力し合い、ウイルスに対してのワクチンの開発と、有効な治療薬の開発に多くの努力を傾けています。ビル&メンダリング・ゲイツ財団も、多くの資金を提供しつつ早期の実用化に貢献しようとしています。ウイルスの抗原検査も、早期診断に対して光明を照らしてくれるかも知れません。抗インフルエンザ薬であるアビガン（ファビピラビル）の中間体の製造を、宇部興産が再開するとのニュースも聞いています。

ワクチンの開発には少なくとも 1 年半はかかるだろうと言われていますが、それまで現在の状況をこれ以上悪化させないように、そして地域医療を崩壊させないように、それぞれの立場で医療を提供し続けていかなければなりません。

ウイルスに対しての全世界を挙げての戦いの中で、しっかりと自分自身と家族、そして周囲の人たちを守る手段と知識を盾とし、ウイルスを殲滅できる剣を手に入れる日が来るまで、強靱なモチベーションを保っていかなければなりません。

## 入退院・在宅療養支援室の紹介

入退院・在宅療養支援室師長 佐々木 美佳



2018年4月に入退院・在宅療養支援室を開設し2年が経ちました。当支援室の目標である「患者を中心としたシームレスなチーム医療の提供」を目的に、看護師2名、社会福祉士1名で支援を行っています。

入退院・在宅療養支援室では、多職種による医療チームのメンバーと連携を図り、入院される患者さまやご家族が安心して治療や検査を受け、住み慣れた地域・在宅で生活ができるよう、入院前から退院後の療養環境を見据えた支援を行っています。

当院では4月より外来においてAI問診が導入となり、入院時支援においてもより早期に患者さまの情報を把握し多職種での情報共有ができるようになりました。

今後も患者さまやご家族との対話を大切に、地域の医療機関やサービス事業所等と連携を図りながら意向に沿った支援ができるように努めていきます。

### 《入院時支援》

- ・入院生活に関する説明を行い、ご不安やご心配を軽減いたします。
- ・入院に必要な物やお部屋についてのご説明をします。
- ・現在の生活状況や症状についてお聞かせいただき、入院時からご対応できるように多職種で連携し支援いたします。
- ・手術や検査について、注意事項や必要物品などのご説明をいたします。

### 《退院・在宅療養に向けての支援》

- ・入院早期に退院後のご希望を確認させていただきます。
- ・介護保険について、申請方法などわかりやすく説明いたします。
- ・ご本人又はご家族と面談を行い、支援内容や退院支援について説明いたします。
- ・地域の医療福祉・介護サービス提供者など、専門職種の方々と連携し、共に支援いたします。

## 新入職員紹介

この春、沢山の新しい仲間が入りました。経験豊かなメンバーです。力強い活躍を期待しています。順にご紹介してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



**理学療法士 増田真弥**

4月からリハビリテーション科に配属になりました増田と申します。

早く仕事を覚えて皆様のお役に立てればと思います。よろしくお願いいたします。



**看護師 小野由貴**

今春より手術室へ配属となりました。他病院にて12年経験し、今までの経験をもとに当院でより専門性の高い消化器疾患の手術に関する知識・技術の習得に励みたいと新たな気持ちです。



**事務 森脇 祐治**

4月から総務課で勤務しています。これまで中四国の病院で事務職員として勤務していました。経験を活かしてお役に立てられるよう努力しますのでよろしくお願いいたします。

外来診療予定表							
	診察室	月	火	水	木	金	土
午前	1診	藤原 9:00~	三浦	三浦	藤原 9:00~	三浦	交代制
	2診						
	3診	三浦	竹尾	竹尾 9:30~	竹尾		交代制
	5診	生形	宮崎	生形	田口/好中 (交互)	鴨打	交代制
	6診			鴨打	鴨打		
	肛門外科		(未定)			竹尾	
午後	1診	生形(※1)	休診	鴨打(※1)	休診	休診	休診
	肛門外科	休診	(未定)	休診	休診	竹尾(※2)	休診
		診療日時		受付時間		診療時間	
平日	午前		8:00~11:00		8:30~		
	午後(月・水)		13:30~16:30		14:00~		
土曜日	午前		8:00~11:00		8:30~		

※1 都合により代診になる場合があります。

※2 肛門外科：午後は手術等が中心となりますので、外来受診については当日お問い合わせください。

土曜日の診療に関しましては、交代制となっております。土曜日の診療予定は受付前に掲示しております。出張等で担当医が不在の場合もございますので、受付またはお電話にてお問い合わせください。担当医が不在の場合は代替りの医師にて診療を行います。

## Access



### 一般財団法人 防府消化器病センター

山口県防府市駅南町 14-33

TEL: 0835-22-3339 (代表)

H P: <https://www.hofu-icho.or.jp>



#### ■交通機関のご案内

【電車】 JR 防府駅よりバス 2 分 (防府市役所前下車)

または JR 防府駅より徒歩 10 分

【バス】 防府市役所前下車

【お車】 山陽自動車道 防府東もしくは防府西インターから 10 分

## Editorial Note

先日「たゆたえども沈まず」の著者である原田マハさんのお話を、メディアで聞く機会がありました。この言葉はパリ市の標語にもなっており、どんなに風が吹いて揺れようとも、決して沈むことがない、という意味だそうです。原田さんは、自分の意見を出しにくいなど、外国の方からマイナスの捉え方をされることも多いこの日本人の気質について、コロナ嵐の中、逆に素晴らしい慎みという側面があるのではと話しておられました。文化は様々な面がありそれなりの意味があるということでしょうか。今回も沈むことなく、皆でコロナ嵐を切り抜けましょう。事務局長 栗林左知